

1. 授業のねらい・概要

企業を取り巻く様々な利害関係者の利害を調整し効率的な企業活動を実現させるために、企業経営者を監視し規律づけしていく仕組みが必要となる。この仕組みをコーポレートガバナンスと呼び、これに関する一般的な基礎理論を説明する。さらに、日本におけるコーポレートガバナンスの特性と課題を具体的な事例を紹介しながら説明する。

2. 授業の進め方

テキストを使いながら、第1回～第2回では、コーポレートガバナンス論の基礎的な議論を説明し、第3回～第5回では、株主利益の最大化を目指すアメリカ型のコーポレートガバナンスを説明する。第6回～第8回では、アメリカなどにはないユニークな日本のコーポレートガバナンス構造を説明し、第9回～第11回では、日本のコーポレートガバナンスにおける中心的役割を果たしてきたと言われる銀行のガバナンス問題について説明する。そして、第12回～第14回では、コーポレートガバナンスの新潮流であるステイクホルダー型ガバナンスや内部統制とコーポレートガバナンスについての最近の動向を説明する。なお、随時、新聞・雑誌の記事から具体的な出来事を取り上げて実践的な説明も行う。最後の第15回では、まとめと復習を行う。

3. 授業計画

1. コーポレートガバナンスとは何か (1) (所有と経営の分離)	8. 日本型ガバナンスの再検討 (3) (メインバンク・システムの有効性)
2. コーポレートガバナンスとは何か (2) (エージェンシー問題)	9. 日本の銀行のガバナンス (1) (金融危機の何が問題か)
3. アメリカ型ガバナンスの特徴と限界 (1) (株主による経営者のモニタリング)	10. 日本の銀行のガバナンス (2) (銀行のガバナンスと規制の役割)
4. アメリカ型ガバナンスの特徴と限界 (2) (経営者へのインセンティブ付与)	11. 日本の銀行のガバナンス (3) (ガバナンスの空白)
5. アメリカ型ガバナンスの特徴と限界 (3) (株式市場を利用するアプローチ)	12. ステイクホルダー型ガバナンス
6. 日本型ガバナンスの再検討 (1) (企業系列)	13. 内部統制とコーポレートガバナンス (1) (SOX法)
7. 日本型ガバナンスの再検討 (2) (日本独自のメインバンク・システム)	14. 内部統制とコーポレートガバナンス (2) (わが国における内部統制制度)
	15. まとめと復習

4. 到達目標

企業のコーポレートガバナンスのあり方に関心を持ってもらい、その重要性を理解してもらうことを到達目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を必ず復習して、疑問点などを明確にしておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

①授業への取り組み姿勢 (評価に占める割合: 30%)、②課題等に対する内容 (評価に占める割合: 20%)、③定期試験・レポートの結果 (評価に占める割合: 50%) によって、評価する。

7. テキスト・参考文献

テキストは、授業開始時まで指定するので毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

8. 受講上の留意事項

受講の要件としては、金融・ファイナンスの基礎知識があることが望ましいが、そうでない場合も理解できるように説明する。疑問や不明な点については遠慮なく質問してもらいたい。